



今月のことば

Words of the Month

資格の先にある本当の自分

日本弁理士会副会長

鶴谷 裕二

弁理士をはじめとする士業は、弁護士、司法書士、公認会計士などと同様に、政府が一定の専門的スキルを持つ者に資格を与え、その資格者だけが行える専権業務を法的に定めています。これは、国民が高度な知識を必要とする場面で、資格者に依頼することで適切なサポートを受けられるようにするためです。また、政府としても、こうした制度を設けることで、社会全体が円滑に機能し、国家の発展に寄与することを目的としています。

弁理士という資格を得たことで、特許や商標などの専権業務を行う機会を得て、競争の少ない環境で業務を行えるという大きなメリットがあります。しかし、一方で資格に安心してしまい、その範囲の業務にしか目が向かなくなることもあるかもしれません。日々の業務に追われる中で、広い視野を持ち、社会全体を見渡すことが難しくなることがあります。資格のない人々がさまざまな工夫を凝らし、革新的なビジネスを展開している中で、私たちは限られた世界にとどまってしまうこともあるのではないのでしょうか。

私自身の生き方の根底にあるのは、金銭を得るための仕事とそれ以外の活動を分けず、収入を得る活動と、趣味や娯楽、ボランティアなど直接お金を得ない活動を区別せずに生活しています。お金が得られるかどうかに関係なく、一日の時間をどれだけ弁理士の業務に充てるか、それ以外にどれだけ充てるかを意識して過ごしています。

弁理士以外の活動には、副業、趣味、ボランティア、家族との時間、家事などがあります。かつて公務員として働いていた頃は、一日の大半を役所で過ごし、寝るために自宅に帰る生活でした。その時は、「こうした生活もあるのかな」と思いながら、自分の一生の時間の中で、その時間を大切にしていました。しかし、弁理士になってからは自由業ということもあり、より柔軟に自分のやりたいことに時間を使っています。家族からは「仕事をしているのか、休日なのかわからない」と言われることもあります。やりたいことがたくさんあるので、そのように見えるのかもしれませんが。

人間は結局のところ、起きているか寝ているか、息をしているか、食事をしているか、といった生き物です。家にやって来るスズメや猫、犬などの動物も同じように、彼らは朝からさえずり、自由に飛び回り、まるで人生を楽しんでいるかのように見えます。その姿を見ていると、自分ももっとシンプルに、生き生きと過ごしてみたいと思うことがあります。

友人とお酒を楽しんだり、インターネットの動画を見て笑ったり、スポーツをしたり、家族と旅行に出かけたり。それぞれが自分なりの時間を過ごしているのだと思います。資格の枠内で専門性を追求することは、とても尊い生き方です。それぞれの人生ですから、どのように時間を使うかは人それぞれ。ただ、時には弁理士であることを忘れ、一人の人間として物事を考え、行動してみるのも良いかもしれません。新しい分野に挑戦してみたり、一日の中で別の顔を持つことで、新たな自分を発見できることもあります。

このような考え方は、既に皆さまも実践されていることかもしれません。私がここで述べるまでもなく、日々の生活の中で自然と取り入れていらっしゃることでしょう。どうぞ気軽に読み流していただければ幸いです。

自分自身の個性を活かし、生身の人間として生きてみることで、人生に新たな刺激が加わり、思いもよらない飛躍につながることもあるかもしれません。スズメや猫たちが自然の中で自由に生きているように、私たちも肩の力を抜いて、生きることそのものを楽しんでみるのも良いのではないのでしょうか。

私自身、このような考え方で日々を過ごしています。皆さまも、自分らしい生き方を見つけて、豊かな時間を過ごしていただければ嬉しく思います。資格や職業の枠を少し離れて、新たな一歩を踏み出してみること、思いがけない未来が開けるかもしれません。